

委員長年度報告

「2022-2023年度 地区会員増強委員会活動報告」

国際ロータリー第2510地区 会員増強委員会

委員長 小山 司 (札幌RC・PG)



新型コロナウイルス感染症のパンデミックが長期に及び、ロータリー活動にも甚大な影響が続くなか、今年度（2022-2023）スタート時点で3年間に250名程度の会員数の減少がありました。会員増強は、ロータリー活動の運営・維持そして発展するための重要課題です。したがって会員増強に関して、スタート当初から将来の新たなクラブ像を打ち出すことの重要性が強調されました。会員数の増加とクラブ活性化は相互に補完する関係にあると言えます。今年度は、地区会員増強委員会として、クラブ活性化のために各クラブと地区クラブ奉仕委員会や地区RLI委員会との連携を強化してきました。また、新たに若手会員や女性会員を対象とした増強対策小委員会を構成し、実効性のある戦略を提供することによって、第2510地区の課題である会員の高齢化や女性会員入会の停滞などの問題解決に当たってきました。

これらの増強活動は現在も進行中ではありますが、今年度末の会員数は21名の純増となり、3年間続いた減少が増加へと転じました。また、女性会員の総数は187名に増加し、会員全体に占める比率は7%から8%に増加しました。

これらの結果と各クラブの活性化との関連は今後の調査と分析を待たなければなりません。

新型コロナウイルス感染症の「5類」移行後、ロータリー活動も徐々に制約が取れつつあります。次年度におきましても、各クラブ全体がクラブ活性化の課題に取り組み、一人でも多くの新会員を迎えられることを期待したいと思います。

「メルボルン国際大会を無事に終えて」

国際ロータリー第2510地区 RI国際大会推進委員会

委員長 福井 敬悟 (札幌手稲RC・PG)



コロナ禍でハワイ、台湾での国際大会がVirtualで行われ2022年度ヒューストンでの国際大会は対面で行われましたが、コロナ禍が収まらず当地区から参加された会員の方はおりませんでした。

3年間の空白があり、コロナも終息とはならない状況でした。

しかし、前回のヒューストン国際大会は対面式での交流に勝るものはないことが証明され、今回のメルボルンでの国際大会はアジア太平洋地区の多くにとって、4年振りに直接顔を合わせることの出来る大会となりました。

当地区、目標としていた50名の登録に対して36名の登録を頂きましたが、この様な状況では上出来ではと思っています。これも石丸ガバナーが公式訪問で積極的呼びかけて頂いた成果と感謝申し上げます。

開会式は全豪オープンテニスのアリーナで開催されました。今回は例年の様に二部制ではなく、開会時は雨の中の会場入りとなりました。

開会式では、例の国旗入場、そしてジェニファーE.ジョーンズRI会長の「ロータリーへの思い、世界の平和に行動をしなければならない」との強いメッセージを述べられました。

恒例の「北海道ナイト」は140年の歴史を持つウインザーホテルで開催しました。2月に下見、打ち合わせを行い、北海道ナイトを盛り上げる「チームメルボルン」の皆さんの絶大なご支援の下、過去に経験の無い多くのご家族のご参加を頂きました。また、他地区から当地区とご縁のある中谷ご夫妻(足利東RC)、高柳ご夫妻(本庄RC)に参加頂き、会を盛り上がり終始和気藹々で3時間が瞬く間に過ぎました。くじ引き景品のご協力を頂きました皆さんに感謝申し上げます。

次年度も太平洋地域のシンガポールで国際大会が開かれます。世界と希望を分かち合うためご参加ください

*大会登録者 12,816名 (アメリカ、オーストラリア2,800名、日本1,500名、次いでフィリピン、台湾、インド、韓国の順)

「委員長年度報告」



国際ロータリー第2510地区

ロータリー財団監査・危機管理委員会

委員長 国立 金助 (函館RC・PG)

本年度の危機管理委員会は、細川好弘前委員長（PG）より引継ぎました。
前委員会にて将来の為の細部資料がまとめられておりましたので（実行するのみ）大変助かりました。

お陰様で①国際ロータリー第2510地区危機管理規定集

②国際ロータリー第2510地区危機管理基金規約 が地区にて承認されました。

委員会は、「危機管理の基本姿勢（下記）」のもと運営して来ました。

1. 危機は必ず起こると認識する。
2. 予兆を捉え予防に徹する。
3. 安全と安心は自ら守る。
4. ロータリーは、例外ではない。
5. 少人数で対応する。
6. 直ぐに対応し、早く解決する。

本年度は、何事もなく無事終了致しました。

山口・西村両副委員長の多大なる協力のお陰げと心より感謝申し上げ報告とさせていただきます。

「文献資料室報告」

国際ロータリー第2510地区 文献資料室委員会

委員長 高張 秀人 (札幌手稲RC)



2022-23年度の1年間、文献資料室の委員長を務めさせていただきました。

コロナ禍により前年度までほとんど委員会の開催がなく、委員会は何をすべきか悩ましい始まりとなりました。

しかしながら、8月に札幌合同事務所の引越しが決まったため一気に動き出しました。引越しの機会をチャンスと捉え、書物やVTRを整理すること、石川前委員長より申し送りのあった時代に合わせた文献資料室のあり方を検討、石丸ガバナーより依頼の書物のデジタル化をと3つの柱で取り組みました。

引越し後はスペースが狭くなるため書物のダブリなどを整理、さらにDVDとビデオテープの仕分けを実施し不要なものを破棄しました。全員で数日かけて取り組むことで、なんとか引越し作業を完了することができました。

10月より書籍をデジタル化するための手法や考え方を話し合いました。

多額の費用をどう考えるのか？またデジタル化した書物をどう閲覧できるようにするのか？

簡単に結論は出ず、少しずつ実施し様子を見ていくことにしました。

書籍のデジタル化を閲覧するには地区ホームページの利用が良いと考え、ロータリー情報・ICT委員会と連携し、次年度より少しずつ実現に向けて動く予定です。

最後に、ロータリー文庫が完全デジタル化されたこともあり、文献資料室も同様の流れを数年かけて実施していくことが必要と思います。

「2022-2023年度RLI委員会の活動を終えて」

国際ローター第2510地区 RLI委員会

委員長 平川 香織 (札幌手稲RC)



前渡邊委員長より引き継ぎ、今年度RLI委員会の委員長を拝命いたしまして、RLI代表委員の石丸ガバナー、RLI地区代表ファシリテーターの小山パストガバナーのご指導の下、RLI委員会とDL委員会の皆様のご協力をいただき、1年間活動を無事終えることが出来ましたこと、心より感謝申し上げます。

これまでの当地区RLI委員会の経験と実績を活かし、今年度の目標を組織運営の確立と強化に力を入れたものとして活動してまいりました。今までディスカッションリーダー(=DL)が運営も担ってまいりましたが、運営とDLを役割分担し、負担を軽減するとともに効率化を図りました。大きな組織変更のため戸惑いもあったかもしれませんが、今後を見据えると必要なことだと考えております。RLIセミナーに関しては、おおよそ予定通り実施することが出来、特に卒後コースとDL研修会に関しては講師の充実を図り、成果を得られたように思っております。また、まだ周知不足の「RLI」をロータリアンの皆様に広くご理解いただき、より多くの皆様にRLIセミナーを受講していただくための広報活動はととても重要な活動でございました。RLIが目指す「クラブの活性化」は、RLIセミナーを受講していただき、クラブによりリーダーシップを備えた会員が増えることが必須です。そのためにもまずRLIセミナーを受講していただくなくてはなりません。今年度は広報活動に関して、十分ではなかったと反省しております。

2023-2024年度も委員長を継続させていただきますが、今年度の経験を活かし、一致団結し、柔軟かつ積極的な活動を心がけてまいりたいと思います。今後ともご理解とご協力賜りますようお願い申し上げます。

「委員長年度報告」

国際ローター第2510地区 クラブ奉仕委員会

委員長 北川 好和 (札幌南RC)



拝啓 盛夏の候いよいよご清栄のこととお喜び申し上げます。

本年度、RIは「イマジン・ロータリー」をテーマに平和の実現を呼びかけましたが、ウクライナ侵攻をはじめとする争いに世界は直面しました。また、英国国王の交代などからも、時は不可逆的であり人類はその時々を生き抜いてきたのだとあらためて考えさせられました。一方でWBC・侍ジャパンの快進撃優勝やサッカーWカップ・アルゼンチン36年ぶりの優勝などのよろこび事からも希望をたくさん頂いたように思います。

さて2022-23年度2年目に突入した地区クラブ奉仕委員会は「クラブの活性化のための魅力あるサポート」という目的へ向けてメンバーの熱意の高まりを強く感じた1年でした。

皆様のお手許でご活用頂いている広報ハイブリッドカードやWebアンケート、今年度新たにスタートした「第2510地区委員会クロスオーバー交流会」にも各チームのアイデアとメンバーの能率アップが活かされたと思っております。

目標課題としております、未来ビジョン委員会の設置や戦略計画検討チームの設置につきましては、Webアンケートの結果、すでに設置・前向きに検討中と多くの肯定的なご意見を頂いておりますが今後ご理解とご協力をお願いして参る所存です。最後になりますが、石丸修太郎ガバナーはじめ地区役員の皆様、お支え頂いた関係各位の皆様にご心より御礼申し上げます。 敬具



「退任挨拶」

国際ロータリー第2510地区 ICT委員会

委員長 堀元 雅司 (札幌南RC)



私は3年間にわたり国際ロータリー第2510地区ICT委員会の委員長を務めさせていただき、光栄に思っております。この貴重な機会を通じて、地区のホームページのリニューアルやFacebookの立ち上げなど、様々な活動に関与させていただくことができましたこと、心から感謝申し上げます。

その中で2022-2023年、石丸ガバナー年度は、ガバナー月信を印刷せず、デジタル配信のみとなりましたため、読者を増やす努力をしました。内容の充実と見やすい内容を考えて進めましたが、スマホでガバナー月信を読むには、老眼鏡を必要とする年代が多い中では厳しいと考え、聴覚で情報を得られるような方法を取り入れ、解決策を見つける事が出来ました。この方法で、ながら聴きで内容を把握することが出来る様になっています。

それと、目標の中には、My Rotaryの登録者を増やす事も有りましたが、こちらは、思うように進みませんでした。今後の課題でもあると思います。

この3年間の中に、コロナの感染拡大もあり休会の続くクラブもあり、ICT委員会として、オンラインでの例会などを進める手助けになるかと、zoomのマニュアルを作成や、zoomでの卓話などもさせていただきました。このコロナで、zoomという新たな手段を手に入れることが出来たと思っております。

私たちのチームは、地区のオンラインプレゼンスを向上させるために尽力し、卓話などのクラブへの訪問を通じて、会員の皆様と交流する機会を得ました。これらの経験は私にとって非常に貴重であり、皆様との交流を通じて成長する機会となりました。

更に地区の委員会を通して、クラブや地区を越えた友人が多く出来て大変うれしく思っております。他に、ICT委員会が管理するFacebookを立ち上げております。今年度、タイトルを「情報交流ひろば」と、どなたでもご覧いただき投稿が出来るイメージに変更させていただき、参加されているメンバーが、まもなく400人になろうとして、予想以上に多くの方にご覧頂いているようで、このことは、私たちの活動の広がりを示すものであり、喜びと誇りを感じています。

今後も引き続き、より多くの方々にロータリーの素晴らしさを伝えるために、ICTの力を活かした取り組みを進めることが必要と考えます。

しかし、私も委員長としての任期が終了し、次のICT委員長にバトンをお渡しする時がきました。ただし、私は引き続き委員として活動に関わり、地区の発展に寄与していきたいと考えております。私が培った知識や経験を活かし、地区ICT委員会の一員として、引き続きサポートを提供してまいります。地区の成長と発展は、私たち一人ひとりの継続的な取り組みによって実現されるものです。私たちの共通の目標である地区の繁栄を追求するため、引き続き皆様と連携し、地区ICT委員会の活動に積極的に貢献していきたいと考えております。

最後に、私が委員長としての任期中にご支援いただきました皆様に深く感謝申し上げます。これからも引き続きご指導とご協力を賜りますようお願い申し上げます。地区の繁栄とロータリーの理念を共有し、共に歩いていくことを心から楽しみにしております。

「2022-2023 地区ロータリー情報委員会報告」

国際ロータリー第2510地区 ロータリー情報委員会

委員長 坂井 治 (千歳セントラルRC)



ロータリーの地区内の活動は毎年地区チーム研修セミナーから始まります。

しかし委員会活動はさらに前から始める委員会も多くあります。

地区チーム研修セミナーは地区内の役員（ガバナーはじめパストガバナー、ガバナーエレクトなどとガバナー補佐、地区委員長、地区幹事団など）が一堂に会して結束し情報共有をして協力し合って一年間の地区運営を円滑に行うために開催されるものだと考えます。

私は2003-2004（佐藤ガバナー年度）に地区幹事を経験して以降ガバナー補佐、地区委員長などをさせていただいておりますが例年地区チーム研修セミナーではガバナー補佐の皆さんと地区委員会が一丸となって地区を運営していきましょうとの掛け声をかけられますが、実際ガバナー補佐の皆さんと地区内委員会が連動して活動する機会はわずかだと思います。

自分自身ガバナー補佐の時は自分のグループ内のことだけで精いっぱいでしたし地区委員会から協力依頼が来ることもありませんでした。

地区ロータリー情報委員会が地区内各クラブのために何が出来るかということを考えた時、クラブとしてのロータリー情報委員会の役割を伝えることと各クラブに対して生きた情報を届けることではないかと考えました。

そこで手始めにグループ内の各クラブのロータリー情報を担当するメンバーに集ってもらい、コロナ禍でもありましたのでzoomを使っての情報交換が出来るように準備いたしました。クラブに対するご依頼はグループを担当されるガバナー補佐をお願いするのが一番いいと思われそうですし、地区チームとしてガバナー補佐に委員会活動に加わっていただくのが一番ご理解いただけるのではないかと考えました。

2021-2022年度に委員会としてこの活動を行うことを決定しましたが全て初の試みのため試行錯誤の繰り返しでした。2022年1月に委員会メンバーの3名が所属している第7グループでテストケースとして第一回の座談会を開催いたしました。この時はまだ各クラブの担当者と委員会メンバーのみで開催し、それ以降の座談会のための第一歩を踏みだしました。

委員会にはほかに第2、第3、第11グループのガバナー補佐経験者、第6グループからは次期地区代表幹事もおりますのでそれぞれの人脈から手配をお願いし試行錯誤を繰り返してまいりました。

その後、第12グループ田辺ガバナー補佐にグループ内の座談会の取りまとめをお願い致しましたところ、グループ内での座談会がとても順調に運営できました。以降グループの座談会の各クラブ参加者の取り纏めにつきましては各グループ担当のガバナー補佐にお願いし委員会と連携していくようにいたしました。この形式で行いますとグループはガバナー補佐⇒クラブ⇒担当者と情報が流れ当日の座談会もスムーズに運ぶことがわかりました。ただグループ内には大小さまざまなクラブがありそれぞれに考え方も違います。また都市部と地方、大規模クラブと中小クラブ、などクラブの考え方などに違いがあり一律に行えないこともわかってきました。地方クラブや中小規模のクラブからはお互いに情報交換ができ良かったという声も多く聞かれますし、札幌や函館など都市部では不要との声も聞かれました。ただ参加された方からは年に一度ではなく再度実施してほしいという声もありました。この座談会は強制ではありませんし何かを聞き取りして資料を作ろうというものでもありません。いつかどこかで出会ったときに「やあ」と言って気軽に挨拶できるような仲間づくりにお役に立てればと言う思いもあります。

4月16日に開催された地区研修・協議会で委員会ブースを設営しzoom交流会へご参加いただいた方がオフライン（対面）で交流できる場の提供をいたしました。

今まで地区委員会と各ガバナー補佐の皆様が連携しての活動をするということはほとんどなかったと思われます。二巡目からは過去参加者の皆様にもオブザーバー参加の機会を設け、他のグループの様子なども見ていただけるようにいたしました。またICT委員会とも連携して地区ホームページの改善などにも取り組んでおりますのでその件についての広報も各クラブに対して行っております。

今年度は全委員会をオンラインで開催したこともあり委員会開催数は36回（6月19日現在）になりました。

グループ座談会は20回、地区ローターアクトクラブとも2回開催しており参加者数も一巡目64名、二巡目44名、延べ人数で108人になりました。

石丸ガバナー、松浦ガバナーエレクト、そして各グループのガバナー補佐、地区委員長にもご参加いただきましたことを改めてお礼申し上げ一年間の報告とお礼のご挨拶とさせていただきます。

<委員会メンバー>

副委員長 大坂 直人（由仁RC）

委員 五十嵐 稔（函館東RC） 宇戸 啓隆（赤平RC） 後藤 一昭（江別西RC）

齋藤 仁（小樽南RC） 橘 功記（北広島RC）

「委員長年度報告」



国際ロータリー第2510地区 公共イメージ向上委員会

委員長 松倉 弘 (小樽RC)

今年度は、委員長2年目の年度でありました。

石丸ガバナーより世界ポリオデーに北海道全域で何か計画したいとの話があり、第2500地区と第2510地区のガバナー・ポリオプラス委員長・公共イメージ向上委員長の六名で協議を重ねた結果、「北海道ラジオキャンペーン・ポリオデー」を共同で開催する事になりました。

第2500地区からは全部お任せしますと言われたので、お金だけはよろしく願いますという事にして、当委員会で企画・交渉を行いまして、全道をカバーするFM局を使って両ガバナーとポリオプラス委員会に出演して頂き、ポリオ根絶キャンペーンを通してロータリーとはどんな団体なのかを地域社会に伝える事が出来ました。

各クラブも地域FM局を使って参加を頂き、クラブがラジオ局と繋がりを持てた事が、今後の公共イメージ向上の一つの手段として活用できるのではないかと思います。

広報から公共イメージに変更した事も浸透しだし、その意味合いも理解して頂けるようになって来ていると感じております。

公共イメージの立ち位置は、戦略的優先事項の「より大きなインパクトをもたらす」と「参加者の基盤を広げる」の間にあり、それを繋ぐ存在であり、それを循環させるものである事をこれからも発信していきたいと思っております。

ご協力を頂きました皆様に感謝申し上げます。次年度も引き続きよろしくお願い申し上げます。

「委員長年度報告」



国際ロータリー第2510地区

ロータリー財団委員会／財団奨学金・平和フェロー委員会

委員長 松原 重俊 (砂川RC)

<ロータリー財団委員会>

「全てのロータリアンに感謝を込めて！」

日頃からロータリー財団に対し、ご理解とご協力を頂いておりますことにお礼と感謝を申し上げます。財団委員長としての初年度であり、地区補助金管理セミナー、財団セミナー等の重要な事業そして地区補助金、グローバル補助金などの認証作業、とても責任のある役職であることを改めて痛感いたしました。サポート頂いた財団委員会および関係各位に心からお礼を申し上げます。

財団委員会としての活動目標の一つに、「ゼロクラブ0」の達成があります。これは当地区だけでなく、第1・2・3地域共通の目標でもあり、各クラブの皆様のご協力により無事達成することができました。心からお礼を申し上げます。これは、クラブ会員からの寄付だけでなく、クラブとしての地区補助金の活用とともに、財団補助金委員会、ポリオプラス委員会、財団奨学金・平和フェロー委員会、国際奉仕・VTT委員会などの財団関連委員会の素晴らしい活動を通して、ロータリー財団への理解を深めていただいた結果であると思っております。ありがとうございました。

ロータリー財団は、皆様からの温かいご支援が全てです。どうぞ今後ともロータリー財団に対し、皆様のご理解とご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

<財団奨学金・平和フェロー委員会>

「素晴らしい財団奨学生との出会い！」

日頃からロータリー財団奨学生に対し、ご理解とご協力を頂いておりますことにお礼と感謝を申し上げます。今年度も当委員会の皆様だけでなく財団関係者のお力添えを頂き、素晴らしい財団奨学生を輩出することができました。関係者各位に心からお礼と感謝を申し上げます。

相変わらずのコロナ禍の中、以前の様な渡航制限はない状況とはいえ、円安・海外情勢など自らの目的を達成するために海外留学を目指す若者にとって、大変厳しい状況の中にも関わらず、8名（グローバル補助金4名、地区補助金4名）の応募がありました。その中でzoom面接を含む面接を行いました。海外留学に対してしっかりとした意思を感じられる応募者ばかりで、選考がとても難しく責任の重さを感じております。結果は、グローバル奨学生候補者1名、地区補助金奨学生2名（合格1名、補欠合格1名）を選考いたしました。今年も志高く自らの目標を達成する意欲も強い素晴らしい奨学生と出会う事ができました。この出会いはロータリー財団だけでなく全てのロータリアンにとっての宝者であると思っております。

今年度もコロナ禍での留学であり、きめ細かい奨学生へのサポートを行っていきたいと思っております。今後とも皆様のご理解とご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

「委員長年度報告」

国際ロータリー第2510地区

財団補助金委員会／ロータリーカード推進委員会

委員長 大川 武志 (恵庭RC)



<財団補助金委員会>

日頃から地区補助金事業にご理解ご協力を賜り感謝申し上げます。

今年度は、38クラブ37プロジェクト5委員会に地区補助金をご利用いただきました。金額は、94,212ドルで2022年7月ロータリーレート136円換算しますと、12,812,832円です。とても多額の資金を各クラブの奉仕活動にご利用いただいた事になります。積極的にご活用いただき誠にありがとうございました。

次年度分申請の締切は終わっておりますが、ご対応いただきました次年度会長、幹事、地区委員長には、感謝申し上げます。お蔭様でロータリー財団への申請も無事に終了致しました。

委員長を拜命して2年が経過しようとしています。何とか委員長を務めさせていただけたのも、天内副委員と瀧澤委員のお蔭です。この場を借りて感謝申し上げます。また、ガバナー事務所の寺島様と小松様には、各クラブとのやり取りなど色々とお面倒をお掛け致しました。本当にありがとうございました。

最後になりますが、次年度も委員長を務めさせていただく事となりましたので、引き続きよろしくお願ひ致します。地区補助金の事についてご意見等ございましたら、お気軽に地区補助金専用メールアドレスにご連絡下さい。(hojokin2510@gmail.com)

<ロータリーカード推進委員会>

2022-23年度からの新設委員会です。先ず何をしたら良いのか分からない中での船出でした。伊藤副委員長や武田委員と打ち合わせをして、どうにかこうにか1年間を終える事が出来ました。

先ずは、現状の把握からスタートし、当地区ではどのように推進するのかを考えて行動してきました。この1年間はクラブカードの推進に力を入れて参りました。財団管理セミナーや財団セミナーなどでお時間をいただきお話しをさせていただいたことが少しでも浸透する要因になったと思います。また、4クラブでの卓話も実施できました。これからも少しずつ各クラブにご理解頂ける様に努力して参ります。皆様のお力添えがポリオ根絶の一步となります。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

「ポリオプラス委員会今年度終了のご挨拶」



国際ロータリー第2510地区 ポリオプラス委員会

委員長 長沢 祐純 (札幌幌南RC)

石丸年度の初の試みの大きな事業として、世界ポリオデーに第2500地区と合同で各地域の地元FM放送局を通じて、同日全道一斉にロータリーのポリオ根絶活動の広報を企画し協力をお願い致しました。初の試みにも関わらず、第2510地区の10グループ、26クラブにそれぞれの地域の放送局より発信のご協力を頂きましたことにお礼申し上げます。また、コロナ禍の影響を受ける中、大規模なことはできませんでしたが10月2日地区PHS認証式午餐会においてチャリティーコンサート、チャリティーオークションを開催し、盛儀ななかにも募金活動を行いました。各財団委員会のご協力に感謝いたします。また、地区大会、第5グループ内の各クラブの募金活動にも参加いたしました。ポリオプラス基金の目標とする会員1人当たり30ドル以上の達成クラブは13クラブ、1クラブ1,500ドル以上の達成クラブは7クラブとなりました。

例会での卓話依頼も再開して来たので、大いに活用して頂きたいと思います。

RIではポリオ根絶に向けての活動を最重点課題と位置付けております。

常在国は2ヶ国、2023以降の発症数は数名となっております。地区HPへ近況報告を掲載しておりますのでご覧ください。

「ポリオ根絶まであと少し」今後とも一層のご理解とご協力をお願いします。

1年間有難うございました。

「退任挨拶」

国際ロータリー第2510地区 財団資金推進委員会

委員長 米谷 龍三 (札幌東RC)



財団資金推進委員会はロータリアンが積極的にロータリー活動のプログラムに参加する会員に対し、あくまで自発的な寄付行為を促すことが大きな役割と認識いたしております。つまりその行為は決して強制を伴うものではなく、自ら進んで行われる事が前提としてあるのは自明の理と考えております。

コロナが世界中の人々を恐怖に陥れ始めた時期が不運にも私の任期中と重なってしまいました。一年目の最初の計画では、大口寄付の代表であるAKSのメンバーを増員すべく、数か所のクラブを訪問し卓話を行う予定でしたが、多くのクラブは卓話者としての会員を受け入れては頂けませんでした。その代わりとしてnarrationを挿入したスライドをガバナー事務所を通じて配信いたしました。このスライドは2つに分かれ、一つは「AKSとは何か」もう一つは「AKSの入会式に参列して」です。このファイルには自ら撮影した写真約50枚が収められております。これらのファイルを札幌東RCを除き第2510地区全クラブに対し会員に伝えていただくように各クラブの財団委員会をお願いいたしました。然しながら、クラブによっては例会中止が相次ぎ、情報を十分に行き届ける事ができませんでした。そこで、今年度は多くの会員に情報を提供すべく、どなたでもパソコンを開けば簡単にAKSの詳しい内容を得ることができるようPRを致しました。

それは単に「アーチ・クランフ・ソサエティとは」と入力するだけです。

この中には、同時に札幌東RC2018年2月15日2865回会報の情報も検索することができます。

AKSメンバーは残念ながら今年度も実績はありませんでしたが、メジャードナーは昨年度の8名に続き3名の会員を輩出することができました。

以下がその3名の方々です。

1. 苫小牧RC 橋本洋一会員
2. 札幌真駒内RC 高野園子会員
3. 函館亀田RC 玉井清治会員

私個人と致しまして今後委員長としての役割は終了しますが、機会を見つけては、財団認証プログラムへの活動は続けていく所存です。

「ロータリー米山記念奨学事業の一年を省みて」

国際ロータリー第2510地区 米山記念奨学・学友委員会

委員長 入井 浩樹 (滝川IRC)



平素、RID2510地区69クラブの会員の皆様方には米山記念奨学事業に深いご理解とご尽力を賜り心より感謝申し上げます。

さて、ロータリー米山記念奨学事業は通常のロータリー年度7月から翌年6月迄の年度とは違い4月から翌年3月迄の通常会計年度の事業となります。

そのため、まだまだCOVID-19の影響を大きく受けた一年で御座いました。このことから、米山記念奨学・学友委員会のメイン事業である奨学生宿泊研修を中止せざるを得ませんでした。私達米山記念奨学委員会にとっては、とても心のこりで御座いました。

しかし、2023年3月21日に行われました2022学年度奨学生終了式には15名の米山記念奨学生終了者中12名が出席をし、世話クラブカウンセラー様は全員のご出席を頂きました、中でも大学卒業後に就職地の東京からわざわざ駆けつけてくれた米山記念奨学生もおりました。米山記念奨学・学友委員会委員長としては感動の極みで御座いました。

終了奨学生からの思い出発表では「ロータリーと出会い、人の優しさを学ぶことができました」または、「米山奨学生に合格するまでは日本に来てとても寂しい思いをしていましたが世話クラブカウンセラーさんと出会い、とても楽しい一年になりました」などの発表を聞き、私は思わず涙ぐんでしまいました。



そして、2023年4月9日に行われました新世話クラブカンセラー研修と新米山記念奨学生オリエンテーションでは初めて新米山記念奨学生とカウンセラー様の顔合わせが有り、新米山記念奨学生の緊張をした表情を拝見し、とても愛おしく感じました。

歓迎懇親会での新米山記念奨学生自己紹介では日本語でお話をされたときに、あまりにも流暢でビックリ致しました。2023学年度の米山記念奨学生は継続奨学生を含め18名で御座いますが、ほとんどの学生が日本語検定1級ないしは2級を取得されていました。このことはRID2510地区では初めての事で御座います。

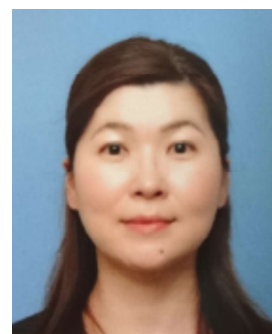
2023学年度は18の世話クラブの他に5つのサブ世話クラブをお願いすることができました。どうかこの一年も会員皆様のご協力をお願い申し上げます。



「学友委員会報告」

国際ロータリー第2510地区 学友委員会

委員長 鈴木 抄織 (札幌大通公園RC)



日頃よりロータリー学友に対し、ご理解とご協力をいただいておりますことに心より御礼を申し上げます。2022-23年度の主な活動といたしましては1月28日(土)、ロイトン札幌を会場にリモートと併用のハイブリッド方式にて、「第7回学友交流・帰国報告会」を開催いたしました。学友委員の皆様を始め、多くの関係委員会の皆様、米山学友会、財団学友会の皆様にご尽力いただき、ありがとうございました。過去2年間はコロナ禍の影響を受け、活動を延期・休止せざるを得ないプログラムもあり規模を縮小しての開催でしたが、今年度はようやく全てのロータリー学友(青少年交換、RYLA学友、インターアクト、ローターアクト、米山奨学生、ROTEX、財団奨学生、国際奉仕・VTT)から、総勢12名の皆様に報告してもらうことができました。

会場リアル参加とリモートのハイブリッド方式にしたことでも、多くのメリットがありました。カナダに留学中の青少年交換、水野日菜子さんは、14時間の時差がありながらリモート参加で、現地から報告してくれました。また、地区内の遠方のクラブからも多くの方にご参加いただきました。道外からは日本ロータリー学友会、そして当地区の財団学友で現在第2780地区鎌倉ロータリークラブの鈴木正会員がご参加くださいました。このように、現地の留学生や遠方の多くの方と共有できたことは大変有意義な体験であり、ロータリーの様々なプログラムへのご理解を深めていただくことにつながると思います。今回は、財団学友会の鈴木洋史会長が司会の大役を努めてくださり、学友の皆様にご挨拶をお手伝いいただきました。次回以降も学友参加型の会を目指し、学友の交流の場を広げてまいります。そして、次回以降もより多くの皆様にご参加いただけるよう、周知活動をしてまいります。

最後になりますが、石丸ガバナー、行き届かぬ私を支えてくださいました学友委員の皆様、関係ロータリアン、学友会の皆様、ガバナー事務所寺島様に多大なご協力をいただき、無事今年度の活動を終了することができましたことに深く感謝申し上げます。

「委員長年度報告」

国際ロータリー第2510地区 職業奉仕委員会

委員長 長田 正文 (岩見沢東RC)



2022-23年度前任の玉井委員長の後を受け職業奉仕委員長に就任しました。職業奉仕に関する知識は玉井前委員長には足元にも及びませんが、少しでも職業奉仕を理解して頂こうと、地区での研修会を2回開催しました。1回目は9月23日札幌東ロータリークラブの塚原房樹パストガバナーに「ロータリーの過去・未来」という演題で講演をして頂きました。2回目の講演は4月2日第2680地区の安平和彦パストガバナーが「ロータリーの職業奉仕と日本の伝統的実業倫理思想」という演題でご講演をいただき、その後RLI方式でグループ討議をいたしました。研修会の後、皆様から頂いたアンケートのごく一部をご紹介します。

- ・今回の研修からも『利己と利他の調和』『満足と感謝』『真実と信用』、たくさんの言葉から組織を運営する本来の目的、理想像が浮き上がる様な感じを受けました。
- ・業界から選ばれてロータリーに参加したのではなく、ロータリーで学んだ職業奉仕を業界に戻って活かしていくという考えがとても印象に残りました。
- ・短い時間ではありましたが、グループセッションにて、各人のロータリーへの魅力、自らの思いが本音で判りやすく聞けて良かった。

等、参加者の皆様にはこの様にとっても好評でした。2023-24年度も皆様に共感を頂ける職業奉仕に関する研修等を開催いたしますので、ぜひ多くの方のご参加をお願いします、そして少しでも職業奉仕を理解してもらえれば幸いです。皆様のご協力ありがとうございました。

「2年間 ありがとうございます」

国際ロータリー第2510地区 社会奉仕委員会

委員長 石本 要 (倶知安RC)



委員長を引き継いでからの2年間、皆さんには大変お世話になりました。

コロナで当初予定していた数々の事業が出来ず、残念な思いではありましたが、6月11日に行われました被災3町支援の最終事業を、「厚真町長杯サーフィン大会」を残し終了出来ましたことでほっとした気持ちです。

当日の浜厚真海浜公園の清掃でいくつもハプニングがあり、面白おかしく、又、厳しい現実を見せつけられました。Mr.Iの海岸線で車が埋まり、当委員会会員に引っ張ってもらったこと。Mr.Mの車のキー紛失事件（これも当委員会会員が拾ってくれました）。そして清掃作業、厚真町長の講演会と全てが終了し、家路についたその夕刻、震度5弱 震源地浜厚真 ということで常に地震の心配やら対応に追われる地域だと改めて認識させられました。

やり残した事

- ・ローターアクトなどの青少年関連委員会と共同の「ロータリーの森 検証事業」
→来年春には開催の運び
- ・3町支援事業の報告書作成→年内には発行の予定
- ・社会奉仕サミットから形を変えた
「被災3町及び周辺の地域若手経済人・活動家とロータリアンとの語らい」
→来年春に第12Gと合同でIMの形で開催予定
これら 実行されるメドが立ちました。

又・各クラブへの情報提供として地区ホームページを利用して定期的に情報発信出来ました。

- ・リクエストのあったグループへの奉仕活動の事例情報の提供
- ・同じくリクエストのあったクラブへ例会での事例発表
- ・第2500地区社会奉仕委員会との情報交換
など活動できました。

短い2年間の委員長でしたが、佐々木副委員長を始め委員各位の多大なるご協力のおかげで何とか体裁を整える事が出来ました。

又、福井パストガバナーには貴重なアドバイスの数々、励ましてここまでくることが出来ました。心より感謝申し上げます。

皆さん、本当にありがとうございました。

「退任挨拶」

国際ローター第2510地区 国際奉仕・VTT委員会

委員長 富岡 豊 (静岡RC)



今年度活動計画、各クラブの皆様にご地区国際奉仕・VTT委員会への活動を理解していただき、国際奉仕事業へ参加して、現地検証などをしていただける様に、サポートをする目的が、新型コロナウイルスの感染拡大で長期間渡航が叶いませんでしたが2022年11月1日～6日、若干の人数制限を儲けた中、国際奉仕・VTT委員会検証ツアーを実施する事が出来ました。

2022-23年度は、地区内36クラブの皆様より、申請と御支援を頂きました。この度は、コロナ禍の中で、クラブの皆様から申請頂いた2021-22年環境事業、教育図書事業、WASH事業とそれ以前のグローバル補助金を含めた様子の確認のために訪問しました。事業は、タイ東北第3340地区、タイ中央・カンボジア等、第3350地区と共同でタイ東北、カンボジア等で実施されました。また、過去のグローバル補助金、過去の事業についても、持続可能な事業になっているか、事業により継続して子供達の未来が造られているかを、自分達の目で確認しました。もっとも感動したのは、メコン川沿岸と公立公園での清掃事業（環境グローバルへのトレーニング）副市長、市職員、市民ボランティア、職業訓練事業を行って来て、昨年8月に創立されたローターアクトと共に清掃活動を行いました。消防車で放水を行いながら100人以上が、竹箒で清掃活動をしました。また、設置されたリサイクルボックスとWASHスタンドも確認。限られた時間でしたが充実した活動が出来ました。

半年前までは、ロックダウンだった、未だコロナは終息していない状況で、現地の事業の進行を粛々と進めてくれた現地のロータリアンに感謝しかありません。

検証ツアーも、渡航前日まで最終調整を行いました。そんな中、様々な地域から駆けつけくれたロータリアン。そして直に見る事が出来た子供達の笑顔。観光気分など存在しない検証ツアーですが、今後も多くのロータリアンが現地で、この姿を目にしていただけると嬉しく思います。

そして、今年度のテーマ『IMAGINE』の様に、子供達の未来を一緒に創造しましょう。私達の『ロータークラブ』・『ロータリー財団』・『国際奉仕』の支援は、確かに多くの笑顔を生み出しています。

「地区青少年奉仕委員会 活動報告」

国際ロータリー第2510地区 青少年奉仕委員会

委員長 西村 英晃 (恵庭RC)



今年度の活動報告と致しまして、地区青少年奉仕委員会として大きかった事は、全国RYLA研究会が当地区ホストで開催されたことです。

青少年に関わる4委員会の委員長から構成されている当委員会は独自での行事は無いことが例年であることから、各委員会の事業が主体で委員全体で何か行事等を行う事は例年あまりございません。

しかし本年度はこの研究会が開催されることによりRYLA委員長が柱となり多くの委員会、ロータリアンを巻き込んで無事に開催が出来たことは思い出に残ります。青少年奉仕委員会でも委員が実行委員会に参加し協力をできたことは良かったです。

それ以外でも、振り返ればリアルでの事業が徐々に戻り始めて来た年度でもありました。インターアクト、ローターアクトにおいては年次大会や地区協議会、地区大会がリアルで開催され、直接の交流が図れたことは、委員会としてと言うよりは参加された皆さんが一番嬉しかったのではないのでしょうか。

RYLAセミナーでは当地区初の2泊3日での開催を行う事が出来ましたし、青少年交換では世界的に見るとまだまだ交換が復活してはいませんでしたが、2名の学生の派遣、1名の学生の受け入れをし、また2023-2024年度派遣候補生2名のリアルでのオリエンテーションの開催も出来ました。

次年度はCOVID-19が蔓延する前の状況のように活発に活動が出来ればと願い今年度終わりのご挨拶とさせていただきます。また次年度も青少年奉仕へのご理解ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

「委員長年度報告」

国際ロータリー第2510地区 青少年交換委員会

委員長 池田 達昭 (札幌南RC)



今年度当委員会は、国際ロータリー第5040地区（カナダ西部BC州）より1名の受入を行いました。実は、もう1人オーストラリアより受入を予定しておりましたが、先方より派遣予定の学生が本プログラムの基準に達することができないためと交換中止の申し入れがありました。厳格な選抜基準を経たうえでの判断だったようです。

一方、当地区からは2名の高校生をそれぞれカナダ（同上地区）とオーストラリア（第9705地区NSW州）に派遣を行いました。

世界中が大混乱に陥ったCovid-19の影響で2年間の交換が施行されず、毎年8,000～9,000人前後の高校生が世界へ羽ばたきますが、その機会を失われたことが大変残念に思います。しかし国際ロータリーの判断により再開され、世界中の青少年交換委員会の絆がさらに強くなりました。勇気をだして世界市民の1人として親元を離れ、遠い国々で新しいことに挑戦しようとする世界観を広げる場を提供している私たちは、高校生を送り出すのみならず、未来を送り出すつもりで奉仕活動の継続をコミットされています。

さて、受入生であるタイラー チョイ君は来日時より日本語による日常会話に困ることなく、私たちの活動をよく理解をし、早い段階から地域社会に溶け込み、千歳高校での生活も大変充実した1年間となりました。ホストクラブである恵庭ロータリークラブにはこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。第2510地区交換学生として、対外的な活動、たとえば北海道青少年科学文化財団が主催する第45回インターナショナルナイトに参加をし、自国の紹介およびロータリークラブの活動を発表する機会に恵まれました。長野県白馬で行われた交換学生が集まるスキーキャンプにも参加をし、世界中に友達を作ったようです。

派遣中の2名両名ともに恵庭ロータリークラブがスポンサーです。カナダの大自然に圧倒され、自分らしく生きることができると水野日菜子さんからのレポートをいつも楽しく読んでおります。当地でのRYLAサマーキャンプに参加をし、他地区からの交換学生とも友情を育んでいるようです。川口侑楠さんは先のメルボルンで開催された世界大会にも参加をし、両親にも会うことができました。また過去の受入学生との交流もあり、まさに親善大使として活躍中です。当地区開催の学友会にもリモート参加をし、元気な姿を見て安心しております。

最後となりますが、RIがとても大事にしているこのプログラムに対し、皆様のご理解とご協力に厚く御礼申し上げます。Covid-19も落ち着き、世界中から交換希望のメールが届いております。日本の若者そして海外からの若者を導き、国境を越えた友情により世界がより平和になることをImagineし、ロータリーに思いを馳せた1年間を無事務めさせていただきました事に心より感謝申し上げます。

「退任挨拶」

国際ロータリー第2510地区 ローターアクト委員会

委員長 高橋 耕 (札幌南RC)



2022年度はロータリー地区大会において、インターアクトとローターアクトのためのユースフォーラムという時間をいただいたことが印象深かったです。以前ですと並行プログラムの一環に青少年のためのプログラムが企画されていたと思います。このことから、石丸ガバナーの青少年への熱い期待を感じ取れました。

ローターアクト委員会としてはローターアクトクラブの新設を目標の一つに掲げましたが、残念ながら叶いませんでした。しかし、複数のロータリークラブから新設を検討しているとの話は聞いております。その流れを絶やさないように、ローターアクトの情報を発信し続けるとともに興味を持ち続けてもらうことが重要と思います。私はローターアクトクラブを提唱することが、ロータリークラブの会員減少への対策の一つであると信じております。

これからは活動の制限がなくなり、ようやくローターアクトの活動が本来の活動にもどりつつあります。6月24日に開催されたRAC地区大会は、数年ぶりの現地開催でした。マスクのない皆様のお顔を拝見しながら、アクトやロータリアンとの意見交換が新鮮で本当に楽しい時間でした。次年度はより本来の活動にもどるでしょう。ロータリアンの皆さんには、是非一度ローターアクトの例会、地区行事に参加してもらいアクトを身近に感じてもらいたいと思っております。

ローターアクトの活動に際しまして、今後とも変わらぬお力添えをくださいますよう、切にお願い申し上げます。

「委員長年度報告」

国際ロータリー第2510地区 インターアクト委員会

委員長 福見 隼人 (札幌東RC)



2022年-2023年度 国際ロータリー第2510地区インターアクト委員会の委員長を務めさせていただきました。

今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大が落ち着きをみせたこともあり、地区行事である「研修旅行」、「地区大会」、「年次大会」を開催することができました。

研修旅行では、仙台を中心とする東北研修旅行を実施し、仙台育英学園高等学校インターアクトクラブとの交流会を含めた、震災防災研修を行うことができました。地区大会ではユースフォーラムとしてインターアクト交流会を開催し、インターアクトクラブに興味を持っていただいたクラブが3クラブあり、今までに新規設立を検討していた2クラブと合わせ5クラブが新規インターアクトクラブ設立について前向きに検討していただいております。

4月には全国インターアクト研究会が四国の香川県高松市で開催され、インターアクトクラブ顧問教員、生徒の合計3名で参加し、福岡や京都のインターアクト、提唱クラブのロータリアンとも情報交換を図ることができました。6月に開催された年次大会は滝野青少年山の家で開催され、地区内6校すべてのクラブ総勢120名のインターアクトが集まり1泊2日の日程で開催されました。野外研修やキャンプファイヤー等を通して、インターアクト同士の交流を深めることができました。

次年度も積極的にインターアクト行事を進めるとともに、新規インターアクト設立に向け提唱希望クラブと協力していきます。

「委員長年度報告」

国際ロータリー第2510地区 RYLA委員会

委員長 齊藤 朋博 (札幌南RC)



2023年5月12日から14日に、札幌市青少年山の家で第20回RYLAセミナーを行い、13名の青少年と31名のロータリアンにご参加頂き開催いたしました。

3日間を通して、参加した青少年が「内に秘めるリーダーシップ」に気が付き、セミナー終了後も育めるよう、リーダーシップの講演やレクリエーション、グループワーク、フォーラムを行いました。開催地としてご協力いただいた札幌市青少年山の家、レクリエーションを中心にご協力いただいた滝野自然学園のお陰でRYLAが大切にしている「非日常の自然環境で心と向き合う事」を実現することができました。

セミナーに参加した青少年は地域のリーダーとして活躍する事、ロータリークラブの奉仕活動に参加する事、そしてロータリアンになる事が期待されます。9月22日にはRYLA学友会を開催し、絆を深めて継続的な組織を構築いたします。

今回は2024年5月31日～6月2日に小樽で開催いたします。多くの青少年とロータリアンのご参加、ご協力をお願いいたします。